

## 様式第3号(第12条関係)

## 会 議 録

会 議 の 名 称	第2回 吉川市立小中学校学区審議会
開 催 日 時	平成28年9月27日(火) 午前・ <input type="checkbox"/> 午後 6時30分から 午前・ <input type="checkbox"/> 午後 8時30分まで
開 催 場 所	美南地区公民館 洋会議室1
出席委員(者)氏名	菅谷利勝、深井正己、市川俊行、小山悟、 田口弘、石井和也、福田稔之、山崎直美、加藤寛司
欠席委員(者)氏名	濱田 美弥
担当課職員職氏名	染谷教育長、篠田教育部長、清水教育副部長兼学校教育課長、 戸張教育部副部長兼教育総務課長、前田教育総務課長補佐、 野見山学校教育課副主幹、岡野学校教育課長補佐
会議次第と会議の公開又は非公開の別	(1) 審議 (仮称) 第四中学校及び南中学校通学区域に係る審議 (公開) (2) 事務局報告 (公開)
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	無し
会議資料の名称	次第、南中学校・(仮称) 第四中学校生徒数推移、グランセンス 2棟目から4棟目 年齢構成予想、駅南地区人口分布(表)、駅南 地区人口分布(図)、試算1、試算2、試算3、試算4、吉川市自 治会区域図
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録

	□要点記録
会議録確認指定者	深井正己委員、市川俊行委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局(岡野) 加藤会長	<p>教育長挨拶</p> <p>資料確認</p> <p>会議成立の報告。</p> <p>会議録署名人の指名</p> <p>委員名簿3番、深井正己委員</p> <p>委員名簿4番、市川俊行委員</p> <p>議事進行。事務局へ試算1から4について説明を求める。</p>
事務局(岡野)	<p>試算1から試算4の内容説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試算1 <p>木売(一部)、高富、美南1区自治会を南中学校通学区域とする案</p> </li> <li>・試算2 <p>木売(一部)、高富、美南1区自治会及び育まち自治会を南中学校通学区域とする案</p> </li> <li>・試算3 <p>育まち自治会を南中学校通学区域とする案</p> </li> <li>・試算4 <p>木売(一部)、高富、美南一丁目を南中学校通学区域とする案</p> </li> </ul>
加藤会長 田口副会長	<p>事務局試算案への質問、意見を求める。</p> <p>第5の試算を提案するので、これを含めて審議していただきたい。</p> <p>美南小学校出身者は第四中学校、中曽根小学校出身者は南中とする案である。</p>

菅谷委員	<p>この場合、平成32年度第四中学校生徒数399人、南中学校生徒数683人、平成40年度では第四中学校生徒数821人、南中学校生徒数655人となる。</p> <p>私も同じ試算を行った。</p> <p>何故、同じ小学校区から二つの中学校へ分かれて進学しなければならないのか。</p> <p>中曽根小学校の子ども達は昔から南中学校へ通っているのでは南中学校へ就学することにそれほど大きな混乱はないのではないか。同じように美南小学校の子ども達が第四中学校へ就学することも混乱はないのではないか。</p> <p>通学路についても、育まちやグランセンスの子ども達が南中へ就学した場合、南中学校に通う子どもと第四中学校に通う子どもが交差しないだろうか。</p> <p>グランセンスや育まちの保護者は、家屋購入の際に小学校は美南小学校、中学校も近くに新しくできるという説明を受けているのではないか。</p>
加藤会長	<p>ただ今、田口副会長、菅谷委員の提案を試算5とすることで、事務局、委員の皆さん、よろしいか。</p>
委員一同、事務局	<p>了承</p>
深井委員	<p>グランセンス1棟目の数字、育まちの一丁目の数字は何処に含まれるのか。</p> <p>資料3-1との整合性は。</p>
加藤会長	<p>事務局へ数字の説明を求める。</p>
事務局（岡野）	<p>資料3については、自治会コードではなく住所コードを基に集計をしているので自治会との整合性はない。</p> <p>試算4-1から4-4については自治会単位から子どもの数を算出している。</p> <p>美南1区自治会は美南一丁目、美南2区自治会は美南二丁目と五丁目、美南3区自治会は美南三丁目、四丁目である。</p> <p>育まち自治会については、美南一丁目から三丁目が含まれる</p>

	<p>が、資料で表記している数字は、育まち自治会の戸建て及びグランセンス1棟目に既に住所を有している子どもの数を使用しており、グランセンス2棟目から4棟目については、未だ住民登録がないので、1棟目の居住実態を参考に子どもの数を見込んだものであり、自治会は全て育まち自治会となる。</p>
深井委員	<p>自治会の分け方がおかしい。育まち（美南一丁目）とあるが2丁目もある。マンション1棟目も同じ自治会である。</p>
事務局（岡野）	<p>育まち自治会は美南一丁目から三丁目までである。</p>
深井委員	<p>三丁目はない、家は一軒もない。</p>
	<p>育まちに美南一丁目があるのに何故二丁目がないのか。</p>
福田委員	<p>深井委員が見ているのは資料4-4ではないのか。</p>
	<p>この資料での育まち美南一丁目は戸建ての部分ではないか。</p>
事務局職員（岡野）	<p>資料4-4での試算は、育まち自治会を途中で分断せざるを得なく美南一丁目の子どもの数のみを表記したものである。</p>
深井委員	<p>了解した。</p>
加藤会長	<p>他にご意見は。</p>
菅谷委員	<p>資料4-4では木売（一部）、高富、美南一丁目を南中学校通学区域とした場合とあるが、美南1区という自治会表記はいらぬのか。</p>
事務局（岡野）	<p>自治会名で表記すれば、美南1区自治会、育まち自治会の一部となるが、分かりにくいと思ったので、美南一丁目と表記した。</p>
加藤会長	<p>他に数字の質問はあるか。</p>
福田委員	<p>前回の審議会でも同一小学校区を支持しているので、中曽根小学校区、美南小学校区での線引きはよいと思う。</p>
	<p>話は変わるが、南中学校分離時に在校生の学校選択に関する意向確認が行われるのかどうか。行われた場合にどの位の数字が出るのか事前にアンケートなどを行うのもよいのではないか。</p>
加藤会長	<p>選択制については後ほどでよいか。</p>
福田委員	<p>はい。</p>
染谷教育長	<p>吉川市が行っている中学校の選択制はクラス増とならない範</p>

<p>小山委員</p>	<p>囲で行っており非常に範囲が狭い。</p> <p>これまでは予定の範囲内での申請であったため抽選を行っていないだけで、誰もが自由に中学校を選択し、就学できるという制度ではないということを知りたい。</p> <p>福田委員の質問は、学校分離時に在校生の意向確認を行うのか行わないのかということだと思うが。</p>
<p>事務局（岡野）</p>	<p>決定はしていないが、原則分離である。</p>
<p>染谷教育長</p>	<p>決定はしていないが、中曽根小学校分離時も原則通学区域による就学であった。</p> <p>今回の場合も、原則通学区域に合わせた就学となり、特別な理由がある場合には指定学校の変更という手続きにより個別の対応となる予定である。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>決定ではないが、現時点での考え方ということでよいか。</p>
<p>染谷教育長</p>	<p>そのとおり。仮に、在校生による選択を行う場合であっても、受け入れ枠を設定し、これを超える場合は抽選となるだろう。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>選択制については、今後の教育委員会の検討事項であり、本審議会において結論は出さないということによいか。</p>
<p>菅谷委員</p>	<p>試算1では、木売、高富の中曽根小学校出身者は南中学校で、他は第四中学校へ。美南1区は美南小学校出身でありながら第四中ではなく南中学校へというのは、難しいのではないかと。保護者への説明も数合わせとは言えない。</p> <p>平成32年度で第四中学校が518人、南中学校が549人、ところが平成40年度では第四中学校では918人で400人の増加、南中学校は6名の減で第四中学校が圧倒的に増える。</p> <p>試算2では、育まちから第四中学校へ行くのなら1km位で近い。ところが南中学校では圧倒的に遠い。グランセンスに居住する人が納得するか。</p> <p>試算3では、生徒数のバランスはよいが、育まちだけを南中学校区としていることで、納得してもらえない内容ではないと思う。</p> <p>試算4でも平成32年度は1、2学級位の差であるが平成40</p>

<p>山崎委員</p> <p>染谷教育長</p>	<p>年度にはやはり差がひらいてしまう。</p> <p>いずれにしても、小学校区が崩れてしまうのはいかがなものかと思う。</p> <p>吉川小学校出身者は全てが南中学校へ就学していないが、通学区区域を決めるのにどのように学区割をしたのか。</p>
<p>山崎委員</p> <p>染谷教育長</p>	<p>南中学校は、昭和55年に生徒数が1,247人になって、翌年に中央中が分離校として開校。栄小学校と関小学校は中央中学校、北谷小学校と中曽根小学校は南中学校。吉川小学校は吉川橋より北側は中央中学校、南側は南中学校とした。現在一つの小学校区で二つの中学校へ分かれるのは、吉川小学校、栄小学校がある。</p> <p>栄小学校からは中央中学校と東中学校へ進学している。</p> <p>特に問題なく二つの中学校へ進学しているのか。</p>
<p>山崎委員</p> <p>田口副会長</p>	<p>希望する中学校へ進学するために中学校選択制を活用している。</p> <p>田口副会長が提案した第5案のメリット、デメリットは。</p> <p>小学校出身者を分離しないという心情面でのメリットが大きい。美南地区へ引っ越してきた保護者も新しい中学校へ通学するつもりでおり、感情的にも受け入れられる。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>中曽根小学校区では従来より南中学校へ進学していることからこれを継続していくことはさほど反対はないのではないかと。</p> <p>自治会を分断することもなく、自治会との取り組みも大切に行ける。</p> <p>小中連携事業を行う場合、美南小学校と第四中学校であれば非常に取り組みやすいモデルケースが作れるのではないかと。</p> <p>第5案には以上のメリットが確認されるということによろしいかと。</p>
<p>山崎委員</p> <p>深井委員</p>	<p>はい。</p> <p>新しい中学校の建設にあっては二つの小学校が通学できるような話を聞いたが。それはなしということによいのか。</p>

染谷教育長

美南地区の子どもは美南小学校で、中学校は第四中学校ということであれば都合はよい。当初は二つの小学校が通学できなければ新しい中学校は建設できないという話があったが。

新しい中学校はマックス何人での構成を考えているのか。

新しい中学校は美南小学校の児童を全て受け入れることが出来るのか。

中学校の規模が分からないのに数字を見て線引きをしてもまた変わってしまうのではないか。

美南地区の各自治会長に集まってもらって、学区審議会で通学区域の審議をしており、場合によっては非情な選択をしなければならぬこともある旨を話した。小学校区を分けなくて済むならこんなよい話はない。

10年先の生徒の数が予想されているのだから、それをすべて受け入れられる体制を整えられるのかどうか、それを聞いてからでないと線引きするのは厳しい。南中学校は1,000人受け入れられる体制があるが、新しい中学校がどの位受け入れられるのかさっぱり分からない。

一つの中学校に対して二つ以上の小学校でなくてはならないという前提はない。

学区審議会において学区が決まった後にどの位の生徒を受け入れるのかということで校舎の具体的な設計に入っていく。初めからどのくらいの規模の学校を造りますということはない。

平成40年度までの数字が出ているが、あくまでも現時点での試算であり確定したものではない。

平成22年度の美南小学校に係る学区審議会において児童数の推計を行ったが、平成29年度から30年度で、ピークを930人くらいとし、そのまま推移するものとして学区を決めた経緯がある。しかしその後の経済情勢や社会情勢の変化で児童数が増加し、現在では美南小学校の児童数が1,000人を超えるという試算がされている。

<p>田口委員</p>	<p>今回の試算についても今後、増減することは有り得るが、その時点で考えられる数字を基に考えざるを得ない。</p> <p>田口委員に第5案のデメリットをお聞きする。</p> <p>第四中学校が目の前に出来たにも関わらず、中曽根小学校の子どもは目の前の中学校に行けなくて自転車で南中まで行くということであるが、中学校選択制による受入れが可能となれば、デメリットの解決になる。</p> <p>同一地域に新しい中学校が出来ると進学することが出来ない中曽根地区の方に対しては、数字合わせではない分かり易い区切り方、中曽根小学校出身者を分離させずに同一中学校へ進学させることなどを説明していけば理解してもらえるのではないかと。強いて言えばその2点である。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>深井委員から質問のあった最大値については、現時点での試算であり、社会情勢などでなかなかそうはならない場合もあるということですが、よろしいか。</p>
<p>深井委員</p>	<p>そこがはっきりしないと美南の開発が止まり新しい住民も頭打ちになる可能性がある。既に居住している住民にしても中学校の建設は遅れている。小学校は急にマンモス化する。今造っているマンションは小学校どこに行くのか未だに分からないという話を聞く。小学校と中学校は連動した義務教育として考えれば親が不安を感じるのは事実である。どうやって決めるのかを目標を持って示さないと説明の仕様が無い。</p> <p>中曽根小学校から美南小学校を分離したときは二合半用水路一本で、区画整理地内と分けた。線一本で分けるのは何処でも一緒だから、どこかで思い切ってやらないとならない。</p> <p>南中学校と第四中学校の生徒数の格差が大きすぎる。南中と第四中学校が上手くやっていけるような線引きがよい。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>そういうプランを練り上げるということで、5つの案が出ているが、比較的それに近い案はどれかということの知恵を絞って検討していく。</p>



菅谷委員

前回の会議で、南中学校と第四中学校の生徒数の差が大きすぎる。南中の生徒数が1,000人から400人になってしまうが部活動の問題や教師の問題など、学校運営ができるのかという問題が出たが、私の試算（第5案）では、平成32年度で南中学校が691人、第四中学校が391人、平成40年度では南中学校で663人、第四中学校で813人となるがバランスはよいと思う。また、美南駅前の建物の建設状況を見ると、平成40年度の第四中学校の生徒数はもっと伸びていると思う。

事務局（岡野）

前回会議で出された、南中学校と第四中学校の生徒数の格差が大きいため、学区境の線を高久自治会周辺まで変更したケースなどを検討してはどうかという意見を踏まえ、今回、色々な試算を提案した。

育まちを南中学校区にする試算は、美南地区の開発と武蔵野操車場跡地の開発を分けて考えてみたものだが、育まちは南北に長い自治会であるため、第四中学校を横に見ながら南中学校へ通学することになってしまう。

事務局ではなるべく第四中学以北に学区境を設定した通学区域をと考えたのが、試算1と試算4である。試算1では、美南地区を美南1区自治会のみを南中学校区としているため、隣接する育まちは第四中学校区となり、同じ美南一丁目でありながら、進学する中学校が異なってしまう。そこで試算4では美南地区を自治会での線引きではなく、住所である美南一丁目での線引きをすることとした。

田口副会長が提案された第5案についても、事務局内で検討したことはあったが、小学校区により駅南地域が二つに分断されてしまうようなイメージを持たれるのではないかとということで、慎重に考えることとした。

通学距離、両校の生徒数のバランスを考慮して試算4が妥当ではないかという考えを持っている。

ただし、同一小学校・同一中学校は実現されない。

加藤会長	<p>事務局より試算に対するメリット、デメリットの説明があったが、もう少し詳しく説明を。</p>
事務局（岡野）	<p>試算に際しては、第四中学校の過大化、南中学校生徒数の激減、両校の規模などを考慮した。合わせて前回の会議で委員から出された線引きの提案などを考慮した。</p> <p>試算1では、前回の会議でも出された自治会を崩さないという点や南中学校からの通学距離も配慮に加え線引きを行った。</p> <p>ただし、同じ美南一丁目であっても、美南1区自治会は南中学校へ、育まち自治会は第四中学校へとすれ違いが生じてしまう。</p> <p>試算2は試算1に育まちを加えた区域設定となっている。グランセンスを含む育まちは、後からの開発で当初は予定されていなかった部分もあるのではないかとということで、こちらの地区は南中学校としては如何かという意見を踏まえた試算をしたが、将来的には南中学校が現在と同じような生徒数になってしまう。</p> <p>試算3については、数のバランス及び育まちな南中学校区編入を考慮したものであり、通学距離や第四中学校との位置的な面がデメリットとなる。</p> <p>試算1から試算3のメリット、デメリットなどを考量し作成したものが試算4である。</p> <p>試算4での平成40年度の生徒数を見ると、両校の格差は生じてしまうが、南中学校の過少化と第四中学校の過大化を和らげることはできる。</p> <p>ただし、この試算では同一小学校・同一中学校は実現できない。</p>
加藤会長	<p>全ての事務局案で、同一小学校・同一中学校は実現できないのか。</p>
事務局（岡野）	<p>できない。</p>
加藤会長	<p>小学校の校長先生方、何かご意見は。</p>
小山委員	<p>以前の勤務校である栄小学校の進学先は、中央中学校と東中学校であり、通学区域が決められた当時は色々と意見もあったと思うが、栄小の子ども達は、そういう風になっているんだと考えて</p>

<p>市川委員</p> <p>加藤会長</p> <p>石井委員</p>	<p>おり、親御さんもそのように理解されている。</p> <p>大方の子どもは指定中学校へ進学するし、中学校選択制を利用する場合もある。</p> <p>人間関係が小中9年間、ずっと続くのがよいと思う方々も少なからずいる。逆に分かれることでよい方向に転じる場合もある。</p> <p>小学校では毎年学級編制を行うが、小さい学校は単学級6年間同じ学級で過ごさなければならないということと通ずるところもあって、学校が分かれることが必ずしも上手くないという感覚はあまり持っていない。</p> <p>グランセンスの販売会社と話をすることがあるが、小学校、中学校については決まっていないという説明をするということ認識を共有している。</p> <p>決まっていない部分で話が違ふと言われても困る。販売者側も決まっていない話をゴり押しすることもできないので、深井委員の発言のとおり、保護者の方々は不安に思ふこともあるのではないか。</p> <p>個別の販売時の話は分からないが、決まっていない部分については方向性程度に留め、後になって話が違ふということにならないように、販売者、学校は対応することとしている。</p> <p>中曽根小学校は、昔ながらにまとまってそのまま行くというイメージがあり、第5の案が保護者からも喜ばれると思うが、反面目の前に中学校がありながら、それを横目に先に行くという感覚を持っているかどうかは分からない。</p> <p>同一地域に新しい中学校が出来上がれば、そこへ行けると思わない保護者はいない。</p> <p>4階から第四中学校建設予定地を見つめる保護者もいる。</p> <p>第5案での通学区域が決められれば大きな異論はないだろうし、生徒数のバランスもよいのではないかと思う。</p> <p>中曽根小学校PTAの石井委員いかがですか。</p> <p>9年間を同じ地区の子ども同士で過ごすことが、情操教育の中</p>
-------------------------------------	--

<p>加藤会長 小山委員</p>	<p>でよいのか悪いのかご意見を伺いたい。</p> <p>間近に第四中学校を見ながら、通り過ぎるのもやるせない。</p> <p>第5の案についてアンケートを取るのもよいのではないか。</p> <p>木売の子どもと道庭の子どもでは考え方も違うのではないか。</p> <p>情操的な点についていかがですか。</p> <p>小さい学校で学級編制を行わずに6年間進むことには、良い面と悪い面があるだろうが、これが美南小学校でも同じように起きるかという、美南小学校では7クラスの児童が学級編成の過程でシャッフルされるわけで、現状で考えると子ども達一人一人がどういう人間関係を築いたりとか別れたりということに関しては、問題はないと思う。</p>
<p>市川委員</p>	<p>学校単位で進学するというプラス面も大きく感じられると思うので情操教育の面や子ども達の心理面を考えると、大きな母体で上がっていくという状況からすると、心配はないと思う。</p> <p>越谷市では上限（抽選）付の自由選択であるが、近くに中学校があるにも関わらず、友達や部活動を理由に学校を選択する子どもがいた。</p> <p>学校選択という枠があれば、進学によって現状を変えることも可能になるのではないか。</p>
<p>田口委員</p>	<p>これまでの仲間がいた方が子ども達は安心できる。</p> <p>美南地区の一部を切り取って、南中学校へ行かせるのはいかかかと思う。色々な子ども達と交流して人間関係を築くという考え方はあるが、そうではない場合もある。</p>
<p>石井委員</p>	<p>中1ギャップへの対応についても、ぬるま湯になってしまうかもしれないが、第5の案であれば可能である。</p> <p>一番は子ども達が満足できる学校生活が出来るかどうかという点に焦点をあてるべきである。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>ギャップを感じないで、不登校にならないで中学校に楽しく行ける環境をどうやって与えるかが焦点になる。</p> <p>前回の会議の意見に基づき、生徒数の面から新しいプランを作</p>

<p>染谷教育長</p>	<p>って検討をしてきたが、いずれもメリット・デメリットがあり、生徒数のバランス、通学の安全性、自治会などの地域社会、子ども達の心理面などを配慮し絞り込みを行う必要がある。</p> <p>これまでの意見を聴くと、4案か5案かと思われるが、埼玉県では820の小学校で1,000人以上の学校が18校、その内2校は1,300人を超えている。中学校は446校で1,000人を超えているのは1校のみである。</p> <p>前回の会議で生徒数のバランスを考慮すべきという貴重な意見により内容の見直しができた。</p> <p>4案であれ5案であれ、現時点の見込では1,000人を超えることはない。</p> <p>美南小学校は1,000人を超える見通しであるが、プレハブ校舎の建設や中庭の活用などにより学区の見直しを行わないようにと考えているが、社会情勢の大きな変化により学区の見直しを行わなければならない事態もあるかもしれない。</p> <p>そう考えると、第5案では美南小学校は第四中学校、中曽根小学校は南中学校と分けても、美南小学校の児童を第四中学校が受け入れできなくなった場合に、美南小学校区の一部を南中学校区にといったような場合には、かなりの抵抗感があるのではないかと懸念もある。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>次回の会議では、本日の5つの案を幾つかに絞り込んで検討してはいかがと思うが。</p>
<p>事務局（岡野）</p>	<p>2～3案に絞り込んでいただきたい。1案、4案、5案でいかがか。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>委員の皆さん、いかがか。</p>
<p>深井委員</p>	<p>育まちは範囲が大きく何となくまとまりがないように思える。美南地区全体で話をしても知らない人が多い。興味はあるようだが、内容を知らない。学区審議会の話をも身近に感じていない。通学区域はこういう風に決まりましたと言えれば、育まちあたりで</p>

菅谷委員	<p>は、そのまま受け入れられるのではないか。</p> <p>美南1区、2区、3区は違うと思うが。</p> <p>中曽根地区では、中曽根小学校の子ども達は何処の中学校に行くのかという話は出てもそれ以上の話はない。</p> <p>私は学区審議会の中での話は他ではしない。話が途中で変わってしまうことが考えられる。</p>
加藤会長	<p>子ども達の学校生活を最優先に考え、地域のまとまりや通学のことを考えると、事務局が提示した1案、4案、5案で検討を進めることでよろしいか。</p>
小山委員 事務局（岡野）	<p>美南駅東口の開発による南中学校への影響はどうか。</p> <p>東口開発は、人口規模4,400人程度で美南地区の半分くらいの規模の街が出来上がると思う。どういった世代・世帯の方々が入ってくるのかは分からないが、南中学校への影響は考えられる。</p> <p>しかし、時間的なものが全く読めないので考慮すべき根拠を見出すことが困難である。</p>
篠田教育部長	<p>開発は動き出しているが、詳細な計画が見定められていない状況から具体的な推計を行うことはできない。</p>
加藤会長	<p>小山委員、よろしいか。</p>
小山委員	<p>はい。</p>
加藤会長	<p>それでは本日のまとめに入るが、1案、4案、5案を次回の検討案とすることでよろしいか。</p> <p>それとも、2案に絞るか、いかがか。</p>
染谷教育長	<p>美南一丁目で生じる子ども達のすれ違いを考慮して、1案を外して、4案と5案に絞り込んでどうか。</p>
加藤会長	<p>2つの案に絞ることでよろしいか。</p>
委員一同	<p>了承</p>
加藤会長	<p>では、次回は4案、5案での検討を行う。</p>
事務局（岡野）	<p>次に議題2の事務局報告を求める。</p> <p>次回は、最終回として予定しているので、答申案についても審</p>

<p>深井委員 加藤会長</p>	<p>議が必要であるが、答申内容が決まっていないことから、答申案に係る審議会をもう一回開催するか、4案、5案のいずれが採択されても対応できるように答申案を2つ事務局で用意しておき、次回の会議で答申案についても審議を行うかを決めたい。</p> <p>予め答申案を作っておくのは、おかしいのではないか。</p> <p>答申案というのはあまり細々としたことを書くものではなく、大枠を表記するものである。</p> <p>事務局が2つの案に対する答申案を用意するということであるがいかがか。</p>
<p>田口副会長</p>	<p>答申というものを見たことがないので、次回用意できるのであれば見たい。</p>
<p>事務局（岡野）</p>	<p>とりあえず、2つの案に対する答申案を事務局で用意させていただく。</p> <p>次回会議での採択後にご覧いただいた上で、そのまま審議していただくか、更にもう一度会議を開催するか、その時点で判断いただくということによろしいか。</p>
<p>委員一同 事務局（岡野）</p>	<p>了承</p> <p>それでは、事務局から報告を申し上げる。</p> <p>次回の開催日について申し上げるが、開催日は10月25日の火曜日、時間と場所は本日と同じ。</p> <p>会議内容は、案4及び案5について審議していただき、いずれかの採択を行っていただく。</p> <p>採択に合わせた答申案についても審議をお願いいただくか、改めて会議を開催するかその時点で決めていただく。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>事務局からの報告に対する質問はあるか。</p> <p>ないようなので、進行を事務局へ戻す。</p>
<p>事務局（岡野）  戸張副部長</p>	<p>紹介が遅くなり申し訳ないが、本日は教育総務課より戸張副部長と前田課長補佐に参加いただいている。</p> <p>教育総務課は、建設を担当する部署である。</p> <p>10月6日から第四中学校の建設に伴う、ワークショップの開</p>

事務局（岡野） 田口副会長	催を予定しているので、参加をお願いしたい。 田口副会長、閉会のあいさつをお願いします。 閉会のあいさつ
以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。 平成28年10月19日 署名委員 深井 正己                      署名委員 市川 俊行	